



We Serve

1990~91 №.5

ライオンズクラブ国際協会

単県独立10周年記念特集号

333-C 地区

# 地区ニュース

1991年5月15日発行

広げよう 愛の奉仕と緑の輪



## “平和な世界を描こう” —国際平和ポスターコンクール入賞作品—

このほどライオンズ国際協会と国連が主催する『第3回国際平和ポスターコンクール』において、千葉県八日市場市須賀小5年山崎智美さんの作品が、日本で3人、世界23点の優秀作品として選ばれました。コンテストは世界の11~13歳までの少年少女に世界の平和を考えもらうため開催されました。寄せられた応募作品は30カ国約20万点。山崎さんの作品は「平和の願いが画面に躍動している。」と評価され優秀賞に選ばれました。



# 目 次

## ●ごあいさつ 「地区分割を決断された慧眼 先人諸先輩の偉大さに感謝」

333-C 地区ガバナー L. 長 島 虹 ..... 1

## ●単県独立 10周年記念特集座談会 ..... 2

## ●地区分割のメリット・デメリット比較 ..... 11

## ●単県独立を振り返って①

1981~82年CAB幹事 L.永藤 一行.....	12	1986~87年ガバナー L.平井 勇.....	14
1982~83年ガバナー L.藤田 定男.....	13	1988~89年ガバナー L.小泉 昭.....	16
1984~85年ガバナー L.秋場 寛.....	13	1989~90年ガバナー L.寺嶋 周三.....	16
1985~86年ガバナー L.橋口 一夫.....	14		

## ●歴代ガバナー・スローガン ..... 17

## ●ご逝去された元ガバナー ..... 17

## ●思い出のアルバム ..... 18

## ●単県独立を振り返って②

長期計画・リサーチ・指導力開発委員長 L.吉田 政勝.....	22	第4R・RC L.青野 虎二.....	25
1981~82年年次大会委員長 L.松丸善次郎.....	22	神崎L.C L.石井 重雄.....	25
地区Y.E委員長 L.青木 孝.....	23	旭L.C会長 L.伊東 諒.....	25
八千代L.C L.中村 清成.....	23	君津L.C L.斎藤 満生.....	26
船橋中央L.C L.林 静誠.....	24	長南L.C L.星野伊知郎.....	26
総武中央L.C L.椎名 紀夫.....	24		

## ●アクトニュース

1R ..... 27	5R ..... 30
2R ..... 28	6R ..... 31
3R ..... 29	7R ..... 31
4R ..... 30	

## ●トピックス ..... 32

## ●物故会員 ..... 38



# 地区分割を決断された慧眼 先人諸先輩の偉大さに感謝！

—単県独立時の原点を思い起こし、21世紀へのステップとしたい—

ライオンズクラブ国際協会  
333-C 地区ガバナー

L. 長 島 彪

記念すべき単県独立10周年心からお慶び申し上げます。10周年の節目の年のガバナーとして誠に光栄でありライオン各位に心から感謝いたします。

この地区分割以後10年、333-C地区歴代ガバナーの築いてきた活動は年々発展してまいりましたが、333-B地区時代に、地区分割を決断された先人諸先輩の慧眼の偉大さに、今さらながら敬服しております。

『この一步から』とガバナー就任以来、単県独立後の節目であるこの年がいかに重要であるかを認識し、単県独立時の原点を思い起こしながら現在を見つめ、やがて来る21世紀へのステップとしたいと考えております。その方針から、地区ニュースで単県独立10周年記念特集号を発刊することとなりました。単県独立の時から見ますとクラブもメンバーも増えており、単県独立時の経緯等知らないメンバーが多くなってきていると思われます。原点に帰る発想は10年の節目の現在にこそ必要なことあります。

1980年11月20日付けで、国際理事会で333-B地区分割が承認された旨、当時333複合地区ガバナー協議会長杉浦明ライオンに通知が成されております。翌年の1981年4月10日付け333-C地区準備委員会委員長杉浦明ライオン名で『333-C地区準備委員会答申』が、333-B地区清水武男ガバナー宛に提出されています。

(答申内容)

- (1) 地区ライオンズクラブ憲章の制定
- (2) 地区ガバナー候補者推薦手続き規則の制定
- (3) 地区キャビネット事務局運営管理規則の制定
- (4) 地区ガバナーのキャビネット構成員任命方法について
- (5) 新しい表彰規定について

(6) 地区ガバナー公式訪問について

(7) 年次大会のあり方について

この年の1981年6月20日のフェニックス国際大会で、村上薰第63代国際会長が誕生した。日本人初の国際会長誕生の記念すべきこの大会で、333-B地区を分割し正式に333-C地区が認められ、式場ガバナーのキャビネットのスタートとなったわけです。

今は亡き式場ガバナーの地区ニュース第1号で、『私は至上命令的に“小さい政府”を創らなければなりません。しかし、“貧しい政府”は作りたくありません。思いやりと友情の絆で困難を克服し、小さい豊かな地区づくりに励みたい。』と述べられており、当時の様々な問題に取り組む様子が目に浮かぶようです。残念ながら7月31日ご逝去された。その時の地区ニュースに、『式場ガバナーのご遺言によりガバナーの角膜は開眼を待っていた人に贈られた。死してなお奉仕を重ねられるその尊いライオニズムは、ライオンズの歴史に燐として輝き続けるであろう。』と記されています。原点ここにありと言って過言ではないでしょう。その式場ガバナーの基本理念を具現しようと必然的に吉原稔人ガバナーが誕生された。以後10年、歴代ガバナーが誕生し今では日本屈指の地区となりました。

この特集号で、単県独立10周年記念特集の一つとして座談会を組ませて頂きました。本年の10年の節目を踏台に、21世紀に向けて益々333-C地区が充実発展するよう今後とも努力してまいります。

地区分割を決断された先人諸先輩の慧眼の偉大さに敬服し感謝すると同時に、式場ガバナー・吉原ガバナー・石橋ガバナー・手塚ガバナーが、10年の節目の今年も健在で頂けたら良かったと思わずにはおられません。



We Serve

# 単県独立10周年記念特集座談会

単県独立してから10年、その間333-C地区は大きな充実発展をとげております。献血・献眼・献腎・Y.E.・L.C.I.F.・ライオネスC・レオCのそれぞれの活動、そして視力ファーストと事業成績は誠に大きなものがあります。単県独立後に入会した会員が千名を越える今、原点に帰り当時の状況を知って頂くために座談会を開催することになりました。

1991. 3. 30 PM 4 ホテルニューツカモトにて

長島ガバナー『単県独立10周年の節目の年のガバナーとして、光栄だと思っています。単県独立の時から見ますと、クラブもメンバーも増えております。単県独立時の経緯等、わからないメンバーが多くなっております。独立した時のクラブ数は69、以後21クラブ増え、メンバー数3,135名から約1千名増えています。退会している人もいる訳ですから、単県独立については知らない人が非常に多くなっております。4人に1人はC地区に入ってからの入会者と言えます。そこで、その当時の思い出を語っていただけたらと思います。』



長島 鮎ガバナー

## 単県独立の背景と決議

司会『単県独立の背景はどのようにであったか、独立しなければならなかった背景について、L.杉浦お話し下さい。』

L.杉浦『地区分割を決議いたしましたのは、私がガバナーになりました1979年80年です。提案をしたのはその一年前の宇都宮の手塚信栄ガバナーの時、千葉県のDDG6人の共同提案でした。しかし、手塚信栄ガバナーの結論が出なくて継続審議となり私に回って来たわけで



L.杉浦 明

座談会の出席メンバー 司会 P.R.情報副委員長 椎名英夫

1980年～81年ガバナー	L. 杉浦 明
1988年～89年ガバナー	L. 小泉 昭
1990年～91年ガバナー	L. 長島 鮎
1981年～82年副幹事	L. 北村 泰彦

記録 キャビネット副幹事 L. 清宮 浩

地区ニュース編集委員 L. 高橋 惣司

写真 地区ニュース編集委員 L. 椎名 茂樹

1978年～79年委員	1978年～79年
地区分割審議委員	6人のDDG
委員長 L.坂本 重雄 (水戸 L.C)	共同提案
委員 L.榎 智光 (千葉 L.C)	
L.齊藤 貞雄 (船橋 L.C)	当時6人DDG
L.吉原 稔人 (市川 L.C)	
L.押元 文三 (房州朝夷 L.C)	1R
L.根岸 巍 (千葉中央 L.C)	L.寺嶋 周三
L.谷口 恒郎 (水戸葵 L.C)	2R
L.鴻巣徳次郎 (土浦亀城 L.C)	L.田中 清衛
L.清水 武男 (水戸西 L.C)	3R
L.刈部 操 (勝田 L.C)	L.根岸 巍
L.山崎 昌治 (土浦 L.C)	4R
L.安田宗太郎 (足利 L.C)	L.松下光太郎
L.手塚 信栄 (宇都宮 L.C)	5R
L.小寺三五七 (宇都宮 L.C)	L.大沢 秀文
L.佐藤 貞夫 (宇都宮 L.C)	6R
L.鈴木 良夫 (宇都宮 L.C)	L.高尾 競一



す。その時のDDGには、L.寺嶋周三がおりました。亡くなられた、千葉中央L.C のL.根岸巖が最も地区分割には熱心でした。木更津にしばしば見えられ尻を叩かれました。私の時代にも何回か地区分割審議委員会を開催しました。委員長に茨城県の水戸L.C L.坂本重雄、委員には名誉顧問の方々等にお入り頂いておりました。ほぼ一年間かけて検討しましたが、茨城県・栃木県は積極的ではありませんでした。千葉県だけ抜けてしまってはメンバーの少ない栃木県・茨城県が残り、今までの様な交流ができなくなるのではないかと言われておりました。結局は地区分割審議委員会でも、やむをえないだろうという結論がでました。私の任期中の年次大会で正式に決議しました。』

## 国際本部からの承認

L.杉浦『翌年の1980年81年に、私が複合地区ガバナー協議会の議長をしておりましたので、議長の名前で国際本部へ地区分割の申請をしました。国際本部から、1980年11月20日付けで正式に承認の公文書を頂きました。次の年次大会を終わった後ということになりますから、木更津の

大会で決議されてから、新しい地区が誕生する1981年7月1日までを準備期間とし、準備委員会を結成することになりました。準備委員会は私を委員長として、L.北村泰彦、L.吉原稔人が入られており、この二人には特に活躍をしていただきました。』

司 会『単県独立の前後を通じて、実際に各クラブへの働きかけをどのようにいたしましたか。』……………

L.杉浦『経過はこのようです。地区分割をするかどうかは一人一人のクラブメンバーだから、充分検討して頂きたい。』とお願いをしてまわりました。資料として地区分割をした場合のメリット、デメリットがあるわけで、L.北村に“地区分割の具体的対応について”を書いて頂きました。もう一つは、L.吉原に“千葉県独立の問題点を考える”を作って頂きました。二人はいづれも、地区分割をした方がメリットが大きいと説明しておりました。私はガバナーとして、“実際に地区分割を行った他の複合の地区はどうだろうか”と、すぐ前に分割した332地区、334地区、333地区を調査いたしました。地区ニュース別刷りで全メンバーに配布いたしました。各クラブでは、問題なく分



We Serve

割すべきだという意見が多かったように覚えています。5Rがやや消極的であったかなという程度でした。  
問題はありませんでした。』



L. 杉浦 明、L. 北村 泰彦

## 地区分割は 初めてではなかった

司 会『L.北村には準備委員会で、地区分割でのご苦労があったと思いますが、お話し頂けますか。』

L.北村『我々の複合地区の中で、地区分割は始めてではなく、十年前に遡って“新潟・群馬・茨城・栃木・千葉”的5県を分割した経緯があります。その時はL.式場倭文夫を中心となって活躍され、L.式場を別名分割男と呼んだ時代がありました。私は、榎ガバナーの時代にキャビネット幹事をしており、その時も分割に着手した訳です。地区分割は未経験ではない訳です。何故分割しなければならないかもわかつておりました。分割を必要とする要因は10年前も同じでした。ただ、最初の時はそれなりに必要な手立てはした積もりですが、縦密な手立てはしなかった。単県独立の時には沢山の資料がバックデーターを揃え臨んでおりましたが、理論武装等L.吉原が努力されました。』

## 財政的な苦しさという 十字架を背負う

### “大義を通す熱情に燃えた”

司 会『分割に際して財政的な問題はなかったでしょうか。』

L.北村『財政は苦しいのは承知の上で、財政的な苦しさという十字架を負っても、分割という大義を通さなければならぬという熱情に燃えていました。大義とは何かと言うと、L.杉浦が作った地区憲章に要約されています。地区が膨大になりますと、キャビネットの運営が大変であることはさることながら、波及していくとクラブに対するサービスが疎かになる。ガバナーとクラブとの距離が親密にならない。デメリットとして、クラブ数が多い程財政的には楽だということです。財政的デメリットは背負い込むことになります。それには地区の運営を簡素化しなければならない。簡素化といっても活性化させながらしなければならない。その方策はどういう所にあるか具体的に並べられてきました。』

## ガバナーは 雲の上の人ではない！

L.杉浦『何故地区分割が必要かと言うと、キャビネットはメンバーのために必要であって、キャビネットがあってクラブがあるのではない。ガバナーは雲の上の人ではなく、メンバーと常に胸襟を開いて話の出来るようであるべきだという考え方を大事にしていくことです。公式訪問に幾つかのクラブを一緒にまとめて行うことは邪道であって、L.吉原の言葉を借りて言うと、クラブの例会にガバナーが一人で“今晚わ”と行くのが公式訪問だとおっしゃっていました。実際には地区分割後も実現できなかったわけですが、少くとも壇上からメンバーを見下ろすような公式訪問では

ないようにしようとも言われているわけです。クラブとガバナーが極めて密接に結びつくことが、一番大事であると言わされました。』

## 財政的には苦しかった

L.杉浦『財政的には地区分割して会員が少なくなる訳ですから、掛かる経費を考えますと苦しくなる訳です。そこで分割前に出されていた D D G・Z C のクラブ指導費もかなり大幅に減額しました。旅費は一切出さないことにし、キャビネット会議などの旅費も出しませんでした。1~2年後にはキャビネット会議ぐらい旅費実費を出そうと電車賃を払うことになりました。財政的には苦しかったわけです。苦しいけれども任に当たった地区役員の人達に我慢をしてもらって、地区費をあげずに出発した訳です。また、ガバナーとメンバーの距離が身近になるということが狙いがありました。』

## 分割の機運は いつ頃からあったか？

L.小泉『当時、L.杉浦、L.吉原、L.北村を千葉県のライオンズの3賢人と言われ、とにかくスインクタンクだったのです。色々な事を決めて基礎を作った方たちなのです。背景について詳しく聞きながら、自分の方から質問したいことがあります。L.杉浦がお話し



L. 小泉 昭

されたのは80年度から出発され、具体的な段階に入つてからのようですが、それから遡って5・6年前分割の機運がかなりあったと自分自身で覚えています。が出発点が良くわからないんですよ。足利キャビネットの足利の分科会に『地区分割について』のスピーチをしております。1975、76年ごろに私のようなメンバーがスピーチしていたことは、

かなり分割問題が俎上にあがっていたのではないかと思います。どういう出発であったのでしょうか。』

L.杉浦『榎ガバナーの頃にL.式場が参与という立場で、キャビネット構成員になられ、L.式場は「地区分割」の主たる担当であったようです。それがそもそもの起りでしょう。75・6年頃のことは私にははっきりしません。』

L.小泉『分割の問題はそれ以前に強く話題になっていたという事例がある訳です。宇都宮安田ガバナーの22蓋大会だったと思います。』

L.高橋編集委員『L.青野虎二の原稿に、分割時 Z・C でしたが、分割の年の4~5年前から具体化していた。とあります。』



編集委員 L. 高橋 惣司



編集委員 L. 植名 茂樹



キャビネット副幹事 L. 清宮 浩



司会PR情報副委員長 L. 植名 英夫

## 独立時のメリット・ デメリットの論議

司会『独立をされた時、メリット・デメリット等議論されたと聞いておりますが、その点についてお話し下さい。』

L.杉浦『地区分割の理想いわゆるメリットを実現するにはどうしたら良いかというのが、準備委員会の最も重要な仕



We Serve

事でした。したがって、組織が肥大化しないようにしなければならない。表現は悪いが会食などは極端に絞り、副幹事・副会計はほとんど置かない等の考え方しました。そんな考え方を大事にして、新しい組織のあり方を考えていかなければならぬと言わされておりました。』

L.北村『毎年他県と一緒に活動しているために、キャビネット事務局があっちへいったりこっちへきたりしておりましたが、千葉市に固定化され、事務経費が軽減されたメリットがかなり大きいわけです。予算の取り方、職員の養成の仕方、事務の習熟、給与面に反映する面、備品の活用の度合、通信費、厚生費は特にメリットが大きかった。収入が縮小されていますから当然のことになります。』

L.北村『本当の狙いはもっと手前にあった。L.吉原がライオンズの組織について「地区のレベルでのあり方」を語っていました。「カリフォルニアのMD4ではあんなに数多いクラブを抱えた大組織にも関わらず、キャビネット事務局のようなものがない。キャビネット事務局を持たなければ出来ないようなやり方をすべきか、職業人だから自分達ができる範囲のやり方でいいんじゃないか。そうは言っても、永年やってきたんだからそれに近い形にしたい。』と言っておられました。』

司 会『当時のキャビネット事務局は、今の千葉市のシーオービルに設置されていましたか。』

長島ガバナー『単県独立以前はキャビネットは移動していましたが、L.北村など千葉市の方々にお骨折り頂いて、今の千葉市のシーオービルに設置されました。』

L.小泉『以前、引き継ぎをするには3月頃から事務所を探し、事務員を雇い、ある程度の備品を買って、事務局員を教育していくわけです。教育するにも専門家ではありませんし、浅い知識でライオンズとはこんなもんだという話から始めるわけです。ですから、キャビネットへ最低15～6か月ぐらい関わるわけです。これは経費的にも大変無駄があるし、無駄な労力が掛かるわけです。』



長島ガバナー『今では、里田事務局員が何でも知っています。A地区・B地区でもわからぬことがあったら、里田さんに聞きに来るくらいです。』

司 会『単県独立以前の資料を調べていたんですが、キャビネットが移動する単県独立以前、継続制に欠けていたことが痛切に分かりました。』

L.小泉『加藤ガバナーの1年前、僕は準備委員長でしたので、月の内何回行っていたでしょうか、ショッちゅう足利へ行っていました。』

長島ガバナー『キャビネット幹事になったら常勤しなければならないだろうと言われてました。現在、A地区の幹事は、ほとんど常勤しているそうです。C地区の幹事は電話とFAXでOKになっています。』

L.杉浦『私もガバナーの時も、毎日夜が明けるとキャビネットへ行っており、ガバナーと幹事は全く常勤でした。』

L.小泉『内局員の半分位は勤めに行くように常勤でした。』

ガバナー長島『常設には反対していたことがあります。常設したら、交通の便も悪い時代でしたから、千葉まで行くのは大変だからと。いざ、十年後にキャビネットを運営してみたら、常設して良かったということです。』

L.北村『榎ガバナーの時代にはワープロがなく、謄写版・ガリ版でしたし、ファクシミリがありませんでした。文書

類は速達で送り電話で話すしかありませんでした。また、十年後を考えますとテレビ電話で会議の時代になります。事務機能・OA機器でカバーして行くことになります。』長島ガバナー『分割時、分割しても会費は変わらないんだよと十年間とおしてきました。去年キャビネットの委員長をしておりましたが、寺嶋ガバナーが地区運営費を百円値上げ案を出したところ、『千葉は独立した時から会費は上げないという条件だった。だから反対です』という人がいました。』

## 式場ガバナーのご逝去と 吉原ガバナーの誕生

司 会『式場ガバナーのご逝去そして吉原ガバナーの誕生となった訳ですが、その時の様子等お話し下さい。』

L.杉浦『式場ガバナーについては誰も異論はなかった。『式場ライオンはやってくれないよ。どんなに口説いてもやってくれない。』と関係者は言うし、さすが熱心なL.吉原さえも「なんべんも行ったけれどだめだ。』と言われたんです。ですが、単県独立時のガバナーは式場ライオンしかいないと、何回かお願いしたんですが正に難関でした。受けて頂けなさそうだという空気だったんです。最後にもいっぺんだけ、断られてもだめ押しのつもりで、お願いに行つたんです。私が「たってお願い申し上げます。』と言ったら、「これ以上固持すればライオンの一番大事な友情を傷つける。』と仰っしゃた。

…………そのことを振り返ると今でも涙ができます。…………そしてお受け頂いたのですが、残念ながら国際大会も終わって式場ガバナーの任期は始まったわけです。その前の段階のガバナーのエレクトセミナーの飛行機の予約も全部済んでいたんですが、お出でになれなかった。第1回のキャビネット会議にもとうとうお出でになれなかった。』



L.北村『式場ライオンを何としても初代のガバナーにしたい。その精神を引き次いで行こうというのが、単県独立に重なっている印象でした。キャビネット事務局を千葉シーオービルの場所にする時、式場さんに来て頂きL.吉原と三人一緒に場所を見ながら指図を受けたんです。』

司 会『国際大会にL.吉原が代理で出席したと書かれています。L.吉原がガバナーに就任する経緯をお話し下さい。』

L.北村『本当はガバナーの代理で行くことはできなかったんですが、国際協会から好意的な待遇を受け自信を持ってスタート出来た。』

L.杉浦『単県独立した年の国際大会で、村上薰さんが国際会長になられた。エレクトセミナーに代わりで生けるというのは、通常考えられないことですが、村上さんの後楯があったんじゃないかなと思います。』

L.北村『村上さんが第三副会長になられる時に大変苦境に立たされ、それをサポートされた。我々の地区でバックアップしようと、鴻巣さんのところに村上さんはこういう方だと話しに行きました。当時鴻巣さんは村上さんとは面識がなかったと思います。我々の地区では、村上さんに温かい気持ちを持って差し上げた結果でしょうね。』



We Serve

## 独立後のアクティビティ

『合同アクティビティの脱皮』

—献血、献眼、献腎、YE、LCIF他—

司会『独立した後の歩みの中でのアクティビティについてお話し下さい。』

長島ガバナー『ここに藤田ガバナー時代の地区ニュースがありますが、当時L.小泉は2RのDDGをされていました。単県地区の特性を生かして、合同大型ACTをと書かれておりこの年献血車を贈呈しています。』

L.小泉『単県独立時にはそこまでの状況にはなかった。次は藤田キャビネットですね。その時2RのDDGで、私は昔から合同ACT論者です。俎上に乗せて議論の対象にしたいという段階でした。こういうことをしてみたいと藤田ガバナーへ進言しました。結果的には救急車ですが、面白いことに1500万円ぐらいの総額で総額1億円ぐらいの実質的な合同アクティビティとして動きました。どうして1億かといいますと、献血車は3000万円もするそうですが、共同募金だとか色々な団体から募金したもので、購入された。20以上の団体から少しづつ入ったものが一台となるわけです。それの半分ぐらいの金額をライオンズが提供したので、交渉したらライオンズ号という名前になったんです。俎上に乗せるだけでなく実現してしまったんです。』

L.北村『アクティビティの一つの理想的なパターンです。呼び水としてすることにより、救急車のように、車があれば他から備品装備をお願いし易い状態になります。』

司会『この他YE活動、LCIF等この十年の中で、アクティビティは変わってきたのでしょうか。』

L.小泉『合同ACTは今でも全面的には理解を受けていな

いと思います。当時随分分科会で話をしましたが1年も2年も反論を言われました。ここLCIFの関係でその見方が脱皮されてきたんではないかと思います。』

L.北村『L.杉浦が長い間ライオン誌の編集長をされておりますが、L.小泉がライオン誌へ合同アクティビティ論を投稿されています。キャンペーン活動を併せながらすることが良い。』

L.小泉『石橋キャビネットの時は梅の木の合同アクトの問題がありました。』

長島ガバナー『梅の木の時も大反対がありました。ところが、5年後小泉ガバナーの時代に梅の木が県下に流れ、合同ACTの成果であったことが知れました。今年は単県独立10周年を記念しての合同ACT“腎バンクの設立基金”をお願いしスムーズにお願いできたのも、小泉ガバナー時代の結果だと思います。小泉ガバナーが献血もアイバンクもやりました。残っているのは献腎研究会を作りました。』

L.北村『“献眼”は秋葉ガバナーの目玉として何としてもやるんだと献眼協会を作り、ライオンズから離れてもやるだけの基盤を作られた。最初は小泉ガバナーの献血・献眼・献腎がありLCIFという目標が入ってきた。形は単位クラブが狭い地域で活動するだけでなく、永年L.小泉が提唱されていた“合同アクティビティ論”が理解得られて来たのではないか』

司会『“メルビーンジョンズ・フェロー賞”についての今後について』

L.小泉『視力ファーストなど国際プログラムに対する考え方方が、非常に盛り上がっております。メルビンジョンズ・フェロー賞を2万人にするんだと言っていたのが、つい昨年のことでした。来年、再来年には7万5千人にしてくれと言われております。皆がそうしようと言うようになりました。世界中で19のクラブが100%メルビ

ンジョンズ・フェロー賞（メンバー全員）を受けております。』

L.杉浦『村上国際会長が仰しゃっていたことに、アクティビティの考え方で、「外国を回って見るとこの学校はライオンズクラブで建てた、この病院はライオンズクラブによって運営されている。日本では小間切れになっている。地域社会へ奉仕をしているけれども、地域という考え方方が地元ですから、まとまった大きな事業ができない。日本のライオンズの考え方を変えなければいけない。地域社会の考え方は国際的な考え方でなければならない。』と非常に強く仰しゃっていました。』

やEKの時代にYEを受入れたり派遣したりしたのは10人前後じゃないでしょうか。単県独立後は活動の熱心なL.林が複合の委員長をされた時に拡大された。40人ぐらい送り出し迎え入れた。地区分割の一つの成果だと思います。

L.北村『独自の考え方を地区内で実現できた。ノンライオン大いにYE派遣すべきじゃないかと。E1からのおこぼれをという時代には独自の発想は生まれなかった。』

L.杉浦『20年前にお世話をしたYEの青年が、突然、もういっぺん訪ねたいと言ってきました。20年前を忘れずに訪ねてきました。YEの活動は相手の国のお互いに相互理解ができる点、大事なことだと思います。』

## YE活動について

司会『YE活動についてもご発言下さい。』

L.杉浦『地区分割によってYE活動は非常に活発になったと思います。分割前の委員は県で1人ぐらいでした。E7

高橋編集委員『地区ニュースで、夏期派遣受入のレポートを掲載し読んだのですが、どの人も良かった、やがてライオンズに協力したいとかライオンズマンになるとかまで書かれていました。お互いの国の文化を吸収また良い経験をし、人生に役立つことだと思います。実際の果実として獲得できたとも考えられます。』





## 今後333-C地区に期待すること

司会『最後に、将来の333-C地区に期待することについて、それぞれお話し下さい。』

L.杉浦『単県独立10周年をお祝いしようという長島ガバナーの考え方たは、初心にかえるという、地区分割時の理想について、もういっぺん考え方直そうということだと思います。地区分割後の会員が半分以上であるから、地区分割がどういう理想でどういう考え方で行われたのか振り返る機会を作り頂き、素晴らしいことだと思います。その理想が更に高くかかげられて実現されることを、心からお願いいたします。』

L.北村『合同ACTについて複合でテーマに取り上げました。もう一つは年次大会のあり方が大きなテーマになり、複合で数年に渡り何回も討議し、単位クラブにもアンケートを頂き資料も沢山集まり、いよいよ地区のレベルで実行しなければならない時期になっています。そこで、今度の吉田キャビネット更に後に続くキャビネットに、ぜひお願いしたい。単県の地区になった時の一つの柱として、考えざるをえないと思う。』

L.小泉『地区の顔はガバナーです。ガバナーの選出ということについて表現しにくいですが、どんな形で選出されるのか、現在、選出基準についてL.杉浦が作られた立派なものがあるのですが、もう少し具体性を持った肉付けをするように、考えておく必要がある。そういう議論が時々あるのですが、どうすれば良いのだという議論には結びついていない。理想論みたいなことでどういう表現をして良いのかわかりませんが、それを考えるような期間といって良いのかわかりませんが、それを考えるような機関といって良いのか、一番基本的な大切なことになってくるのではないか。今までの流れで行きますと、決めた直後から7年間には房総半島をぐるっと一周するような恰好で、いうならば輪番的に来たのは事実じゃないかと思います。結成以来25周年・30周年を経過したクラブが続出してきております。かなりの有能なメンバーが広範囲にいらっしゃる、色々な意見があります。その意見の一つには、むしろ輪番制の方が良いのではないか。また、別の意味では調整しないで立候補を受理して良いのではないか。というような意見をしばしば聞くところです。総括して、何か考えていかなければならぬのではないでしょうか。』

司会『熱の籠もった討論ありがとうございました。長島ガバナーから御礼の言葉を含めてお願ひします。』

長島ガバナー『本当に今日は有り難うございました。ご存知のとおり333-C地区が独立してから地区分割がございません。日本で一番新しい地区であり、私が本年一番若いガバナーだったことなんですが、平井名誉顧問が良く仰しゃっていました。新しい地区なんだけれども、やってることは非常に優秀だ。業績優秀な地区が333-C地区だ。業績はすべて上位をしめている。これからも益々皆さんにご協力頂いて地区的発展をしていかなければなりません。ルテナントガバナー制度は、333複合で初めて採用するわけで、最初に行っているのが333-C地区ではなかろうかと自負しております。ただ、残念なことは、吉原ガバナー・手塚ガバナー・式場ガバナー・石橋ガバナーとガバナー経験者が、十年の節目の年まで健在で預けたら良かったなと思います。誠にありがとうございました。』

## 単県独立時の資料から

1981年5月ライオン誌に『クラブ運営の合理化を考える』という座談会が特集とし組まれています。司会はL.杉浦明（君津L.C.）・出席者は巣黒英男（松戸L.C.）・池澤稔（千葉エコーL.C.）・北村泰彦（千葉L.C.）・吉原稔人（市川L.C.）で、座談会が開催されています。特に、地区分割のメリット・デメリットの比較表等掲載されておりますので、その部分の転載をいたします。

### 地区分割のメリット・デメリット比較

地区	クラブ数 会員数	地区分割のメリット	地区分割のデメリット
A	41	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャビネット方針、重点目標の伝達推進が速やかになった</li> <li>地区内各クラブの訪問、指導の機会が容易になった</li> <li>地区内各クラブのまとまりが非常によくなった</li> </ul>	
	2,202		
B	51	<ul style="list-style-type: none"> <li>1県1地区となってライオニズムと郷土愛が結びついた</li> <li>ガバナーの意志を速やかに伝達・実行</li> <li>公式訪問を単位クラブ毎に行うことができる</li> <li>クラブ3役とのミーティングが形式的ではなく、親密感溢れる</li> <li>会員増強とエクステンションに地区をあげて参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区運営上経済的に窮屈</li> <li>小都市のキャビネット構成は人材に乏しい</li> <li>年次大会々場の選定に苦慮</li> <li>地区としてのアクティビティ金額が低い</li> <li>キャビネットを引き受ける都市が固定化する</li> </ul>
	2,400		
C	81	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区的把握、運営がやりやすい</li> <li>公式訪問が2ヶ月で終了</li> <li>各クラブの周年記念が多かったが出席できた</li> <li>キャビネット事務局が4万都市でももてる</li> <li>年次大会のアクティビティの恩恵が広範囲に及ぶ</li> </ul>	
	3,632		
D	84	<ul style="list-style-type: none"> <li>1県1地区でまとまりがよくなった</li> <li>ガバナーの行動範囲が狭くなったので十分の活動ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンバーが少なくなったので地区運営費収入が問題</li> <li>クラブ間の交流が狭くなつたため小さくまとまる傾向</li> </ul>
	6,338		
E	55	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区が狭くなつたので指導・助言がよくできる</li> <li>会員相互の交流が蜜になる</li> <li>公式訪問等が細かくできる</li> <li>参加役員が比較的広く、早く回ってくるので勉強になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営費収入が少なくなったので運営上苦しい</li> <li>分割しても仕事の分量は同じであるので諸経費がかかる</li> <li>キャビネットを小都市で担当しなければならないので大変</li> <li>会員同士の交流の範囲が狭くなる</li> </ul>
	3,496		
F	78	<ul style="list-style-type: none"> <li>きめ細かな運営ができる</li> <li>公式会議開催の折、日帰りできるので宿泊費不用</li> <li>連絡が蜜になり意志の疎通がよくなつた</li> <li>役員の人柄もよく分かり、地区行政からもよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区費は案外かかり、予定したように合理化できない</li> <li>キャビネットのローテーションが早くなつたのでその準備が大変である。</li> </ul>
	4,874		
G	72	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導・連絡が早く、徹底できる</li> <li>各クラブ・各会員の親睦がより強固になる</li> <li>地区大会、代議員大会等も参加者が少なくなり、中小都市でも開催できる</li> <li>中小都市のクラブからガバナー適格者を選出できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区費の増額が必要</li> <li>過去の地区記録が分割により分散する恐れがある</li> <li>地区役員の必要数が会員数に対して増加する傾向がでる</li> <li>Y.E派遣などの割当に不平があるので複合地区委員が準地区を牛耳ろうとする傾向がある</li> </ul>
	5,583		
H	57	<ul style="list-style-type: none"> <li>公式訪問がらく</li> <li>実情の把握が容易になった</li> <li>周年・C.N等各クラブの行事に参加しやすい</li> <li>旅費が少なくてすむ</li> <li>リジョン等役員の召集が容易で徹底しやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区費の減収予算がたてにくい</li> <li>従来の仲間意識が強く、分割後の地区という気持ちがうすい人がある</li> <li>予算は半減したのに従来実施された事柄を要求する人もある</li> </ul>
	3,580		
I	51	<ul style="list-style-type: none"> <li>こまめに公式訪問ができ、ガバナー方針等が徹底できる</li> <li>弱小クラブの指導が十分にできる</li> <li>意見がまとまりやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会員同士の交流が若干薄くなる</li> <li>Y.E、レオ等の合同協力面での態勢が難しくなる</li> <li>経費上の問題をよく考慮し、節約に大なる努力を要す</li> <li>地区割、人頭割の矛盾した点がでてくる</li> </ul>
	3,058		
J	84	<ul style="list-style-type: none"> <li>公式訪問が合同例会方式で行われるようになった</li> <li>ガバナーの方針が多くの会員に周知されるようになった</li> <li>地区誌、キャビネットの情報が全会員に配布される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特殊事情にある地域にリジョンがあるため経費的に無理がある</li> </ul>
	4,068		



We Serve

# 1981年のドラマ

1981～82年

C A B幹事 L. 永 藤 一 行

10年前の1981年は、市川クラブにとっても、私個人にしても忘れない年になった。この年の4月19日は、千葉県分離による333-C地区キャビネットを、千葉市に開設した日で、L.式場倭文夫Gov.予定者の元気な挨拶の声が、単県独立ドラマ開幕の合図になった。そして、それから間もない5月1日こそ、L式場にとり運命の入院の日であった。

333-B地区の年次大会は、5月9日ぬけるような五月晴れの水戸で開かれ、登壇の式場夫人が紹介されると、満場の拍手が湧き、私は市川Cの会長として入院中の式場Lのメッセージを代読した。6月14日からのフェニックス国際大会には、地区幹事エレクトの吉原稔人Lが参加し、ガバナーズセミにも代理出席がゆるされた。同じく20日L村上薰が、日本人初の国際会長に就任し、同時に333-C地区とその初代Gov.としてL式場の登場となったのである。7月22日、誕生まもない式場Gov.の病状が悪化し、第一回

C A B会議は急遽、吉原幹事をGov.代理に推したもの、同31日の猛暑の日、ついに不帰の人となった。ついで8月30日国際理事回の承認を得て、吉原幹事の後継Gov.就任をみたのである。以上が4月から8月までの、あまりにも慌しい経過のあらました。千葉県ライオンズの単県独立が、いつの頃から胎動したかを指摘するのは容易だが、それじたい意味のあることではない。各県混成時代の身丈にあわぬ袴をぬぎ、通有の県民意識を底辺にけば、万事円滑にゆくと考えたのにふしぎはない。それにしても千葉県ライオンズの最初の種子を播いた、式場Gov.の英姿をまのあたりにできなかったのは、無念としかいいようがなかった。

333-C地区生誕のための、あまりにも劇的な1981年を象徴するように、主役を演じた式場倭文夫、吉原稔人の師弟ガバナーも、支援してくれた村上元国際会長もすでにはない。顧みて痛嘆措くことを知らない。



1981～82年 『CABスタッフ勢揃い』

## 備えあれば……

1982～83年

ガバナー L. 藤田 定男



千葉県の単県独立は、私にはとりわけ思い出の深い出来事でした。私がガバナーとしてC地区のキャビネットを担当したのは、単県独立して2年目のことで、前年度ガバナー故L.吉原稔人がすぐれた指導性を發揮され、順調なスタート

を切ったとはいえたが未だ地区としての基礎が固まった状態ではなく、問題もあり、何よりも地区メンバー数が約300人と世帯が一挙に小さくなり、大変でした。メンバー数が少なくなる事は、地区の弱体化につながり兼ねないわけで、財政面での縮小の影響を防ぐため様々な工夫をしました。印刷費捻出に苦労し、手作りでの議事録や報告書を作ることもありました。何もかも手探りの感じで大変でしたが、それだけにアットホームな暖かさがありました。地区的先輩同僚達はいずれも素直に協力を怠れなかったのには感動しました。他地区においては、とかく大姑小姑の干渉が強く、苦労が多いと聞いていますが、独立の初期にそのような事があったはさぞかし混乱したでしょう。

このように小さな地区が、確実に力を発揮するにはどうすれば良いかとの発想から生れたのがC地区災害緊急援助基金です。災害が発生した緊急時に、被災者を援護する活動は、最も貴重なアクトでしょう。しかし地区に力、すなわち貯えがなければ敏速な対応は出来ません。思い切って先に力を貯えておけば何とか対応できます。その為の予めの容易がこの基金です。その後のこの基金の活躍ぶりは御承知の通りです。千葉県ライオンズの大きな戦力です。

現在のC地区と比較してみると全てに今昔の感がありますが、次年度、当時の地区幹事たる吉田政勝氏がガバナーに就任し手腕を発揮しようとしておられます。

またアクティビティ基金構想を持っておられる方と聞きます。実現すれば、将来地区内から大いなる評価を受けるものと信じます。成功を祈ります。

## 十年一昔の夢

1984～85年

ガバナー L. 秋場 寛



333C地区が333B地区より分離独立して既に10年昨日の様に思われる。丁度私がDOG時代、キャビネット会議の為度々水戸まで車を走らせた事が思い出させる。その頃から榎木、斎藤、杉浦各名誉顧問が忙しく独立への道を働きかけていた時代であった。

人間は生れつき選ぶ力、分別をもっている。一つ一つの分別を重ねることで行動し、それによる環境上の相互関係によって、自分自身を創ってゆく、第一次大戦終結の翌年混乱の中でドイツで生れたシュナイダー教育の様なものだと思う。

自由に選び、自由に考え、そして行動に移す、ライオンズクラブでよく使う自主性にまかせるという言葉ほど責任の重い言葉はないと思う。

ライオンズクラブの中で指導力開発委員長（リーダーシップ）という難しい役職がある。個性、能力、適性を考えながら運営してゆかなくてはならないし、ガバナーの頭脳となって、進言しなければならない重要な役職である。

たとえば「あなたの個性は」「あなたの適性は」と問われても、何を基準にしてどの部分を答えてよいか戸惑うものである。この様に自分の事ですらよく把握できないのに他人の事を的確にとらえる事は容易ではない。

個性(individuality)、能力(ability)、適性(aptitude)を身体的、そして精神的面から分析して、何が出来るか、どれだけのことが出来るかを判断しなければならない。

ライオンズクラブの柱であるActivityについて一私がガバナー就任時二つの大きなアクトが頭の中にあった。一つはライオンズクラブの老人ホームであり、もう一つはアイバンクの設立であった。当時既に日本全国数県を除いてアイバンクが設立されていた。しかもその90%以上がライオンズクラブ主導のアイバンクであった。幸に卒業大学はじめ各大学の眼科教授、ロータリークラブ同期のガバナー



We Serve

であったキッコーマン会長茂木佐平治氏等の同調を得、意を決しキャビネット会議にその案を提出、総意を得たので千葉県及び厚生省に足繁く通いました。このときほどライオンズクラブの友情の絆の固さを味ったことはありません。地域に密着した小さなアクトもたしかに有意義かもしれない。しかしその中には振り帰って見ると自治体の当然なすべきものが多い。しかも10年と経たない中に跡形もなく消えているものが多い。

私はここでライオンズクラブ専用の老人ホームの設立を提案したい。外国では既に病院や研究所を設立している。ライオンズクラブには各職業のオーソリティが揃っている、国や県の同調を得て補助金の申請や民間団体の協力の下にライオンズクラブが主導となって、次の15周年、20周年には是非記念アクトとして実現させたいものと夢みている。

## 南去北来人自ら老ゆ

1985~86年

ガバナー L. 橋 口 一 夫



1980年県下各LC会長が集り、L.吉原、L.北村より単県独立のメリット、デメリットの説明をうけ、理解を深め充分な準備の後、新しい地区の理念を盛込んだ地区憲章を制定しスタートが切られました。その間、L.杉浦明を始め23

名の準備委員の努力は大変なもので非常な大事業でありました。所がガバナーエレクトL.式場倭文夫が就任直前不幸にして病に倒れ、L.吉原稔人がガバナーエレクトセミナーに代行渡米するという事態が起こりました。第1回CAB会議には口述で市川LC結成以来20年以上病気もせず皆出席を続け、豊富な歴史を誇り地区にとっても自身にとって最も大切な時期に病に臥っている事の申訳なさを切々と詫びておられます。その胸中は誠に無念であったろうと察せられます。然し乍ら人格識見共に卓越したL.吉原を中心とした構成員は協力一致、この難局に当り今日の333C地区の輝かしい発展の基礎を築いたのです。丁度この年第65代国際会長にL.村上薰が就任し、日本ライオンズが3

0周年を迎えた年で、10月8日記念全国大会が武道館で盛大に開催されました。村上会長は就任の挨拶で「人間は水と空気と平和がなければ生きられない。水と空気は神が与えてくれたものだが、平和は人間のみが作りだすものである。にも拘わらず人間同士命を奪い合っている愚かさを指摘し国際会長のテーマを「people at peace」とし「ライオニズム即ち平和の心」との考え方示しました。私は幸にも81年地区会員EXT委員長、86年地区ガバナーとして地区内皆様の暖いご支援により、組織の簡素化、経費の節減等地区独立の理念を守り責任を全うする事ができました。10周年を迎えた今日L.式場もL.吉原もL.村上も今はもう数々の思い出を遺して帰らぬ人となって下さいました。私は今後も之等諸先輩の意志を守りライオニズムの昂揚と地区の発展に寄与するよう努力を続けねばならないと思って居ります。

## (1)地区運営の回顧

1986~87年

ガバナー L. 平 井 勇



地区の繁栄はその結合体である単一クラブが健全であるか否かにかかっている。さればこそ国際協会はガバナー制度の根幹を地区内クラブの指導育成に置き、常に新しい息吹きを与えて活性化を図ることを強く要望している。私は地区ガバナーの任務遂行に當り、次の3項を標榜して実践的な指導に徹することを表明した。

1. 地区憲章の意識を理解して精進すること。

地区内クラブの総意を結集し希望に燃え情熱を傾けて発足したC地区創建の精神は、此の憲章に凝結されている。崇高なるさの意義を深く理解し、誇りと自覚とをもって精進するならば、地区の繁栄はもとよりライオニズムの昂揚に大いに寄与し得ると確信する。

2. 『世界を結ぶまごころ奉仕』の実践に努めること。

私がスローガンとして呼びかけた『世界を結ぶまごころ奉仕』の旨を体し力強く実践されたい。まごころ奉仕は、ライオンズ我等の永劫賛歌の合言葉であり、

人道主義に基づく博愛の心をもって奉仕の誠を致し、人類社会の歪みを是正しつつ相互理解と友好の輪を広げて、世界平和に貢献しようとする意欲的、価値的文化活動である。これは人類社会が存続する限り普遍性を持つ理念であり、而もその源泉は会員自らの心の中にこそ在ることを認識して活躍されることに尽きる。

### 3. マンネリの風潮を打破して合理化を図ること。

近来の通弊として、運営に就ては行事を無難にこなして事勿れ主義に終る。奉仕活動に就ては安易な目先だけの糊塗に止まる、此の様なマンネリ化が何時の間にか広がり、クラブ活動を硬直させている忌はしい傾向が散見されることは残念である。規模の大小・組織の強弱・立地条件の差はあっても油断をすれば忽ち生じて来るかびにも似たマンネリの潜在は恐ろしい。これを打破して進むには、会員一人一人の自覚と信念に拠らざるを得ないので、ライオニズムに徹した精進と基本姿勢の認識を深めて行動することを要望する。

股、組織がその発展を計るために常に修正を必要とするので、その作業として合理化を奨めたい。無駄を省き足らざるを補ってクラブ経営を充実せしめること、即ち時宜に適さぬ疎腐な行事や運営面の陋習を捨てて生ずる労力・金・時間に有効な事業活動等に注入する、更に会員相互の親睦を期し機微に触れた運用と参加意識向上の計画を持つこと、此等の工夫が重要な合理化のポイントであるので対応して欲しい。

以上の表明を基調とし、私は一貫して積極的な指導育成に徹したのであった。幸いに各クラブの理解と共鳴があったので、確固たる地区運営の方向付けが得られ、親睦と結束とによって地区組織の強化が促進された。更にこれによってライオニズム高揚の意欲が一段と鼓舞されて活性化を呼んだことも大きな収穫であったと思考する。

1ヶ年と言う短かい任期の中で、老骨ながらよくも頑張り通したものよと、回顧して感懷一入のものを覚える次第である。

## (2)伝統の心を支えとしてさらなる飛躍を……

1981年6月20日米国アリゾナ州フェニックスの第

64回国際大会において、正式に333-C地区ガバナーとして式場倭文夫L（市川）が就任した。これによってC地区は単県独立して準地区を創始したのであるが、以来歴代ガバナーの熱意と努力とによる運営によって繁栄し、今では極めて優秀な地区として全国31地区の間で高く評価を受けている状況である。正に10ヶ年に亘り宮々として積上げて来た歴代ガバナーの御苦勞の成果であり、伝統の活力となって結実したものと思考する。茲に歴代ガバナーの指導標語を掲げてその業績を称え、更なる飛躍を目指す心の支えと致したい。

初代ガバナー式場倭文夫L（市川） 81～82年

後継者 吉原 稔人L（市川）

『豊かさと知性で創るコミュニティ』を軸として指導に当り、地区憲章・ガバナー候補者推薦規則を制定する等、地区の基盤確立に専念された。

第2代ガバナー藤田定男L（習志野） 82～83年

『愛の手で幸福な明日を』を指針として全員参加のクラブ運営を強調し充実強化を計る。更に地区災害緊急援助資金規則を制定して共存共栄の意義を深められた。

第3代ガバナー石橋光L（千葉中央） 83～82年

『愛と知性で日に日に奉仕』のスローガンを掲げ地区内クラブの活性化に努力された。YE活動の充実と献血献腎運動の展開に尽くされた。

第4代ガバナー秋場寛L（上総一宮） 84～85年

『愛の心で価値ある奉仕』を標榜して眞の奉仕の意義を説き、自らその真髓として、財団法人千葉県アイバンク協会設立に献身的な活躍をされた。

第5代ガバナー橋口一夫L（銚子中央） 83～84年

『奉仕で結ぼう心のきずな』を旨として、会員相互の連帯とクラブの義務を自覚せしめるための方策に徹し、地区は一つであることを教示して指導された。

第6代ガバナー平井勇L（館山） 86～87年

『世界を結ぶまごころ奉仕』を相言葉に、ライオニズムの顕現は真心奉仕の実践にあることを説き廻り、地区憲章を体してマンネリ化の兆しを排除しようと叫び続けた。クラブ運営の合理化の研修及びワークショップによる会員指導の会合を主催して、広く地区的刷新強化につとめた。

第7代ガバナー手塚勇L（富津） 87～88年

『愛と奉仕で平和な世界』を旗印とし、組織偏重主義、

形式主義、先例主義に流れる風潮を厳しく戒しめ、ライオニズムの原点を見つめて精進することを説き、クラブ及び会員の質的向上に全力を傾注された。

**第8代ガバナー小泉昭 L（船橋） 88～89年**

『高めよう心豊かにL字の誇り』をモットーに、メンバー意識の高揚につとめ、全体討論による意見交換を基調とした地区運営の充実発展に努力され、今後の飛躍を目指すための方向付けを図られた。

**第9代ガバナー寺島周三 L（柏） 89～90年**

『育てよう緑の大地住みよい環境』を重要課題とし、地球汚染に対する人類の責任を自覚せよと断じ、積極的な対応を懇願された。クラブの自主性を重んじ話し合いの運営を図るが、常に国際的視野に立つ発想と行動に意を注ぐことを諭された。ルテナントガバナー制度の採択と地区特別運営費の徴収が決議された。

**第10代ガバナー長島彪 L（佐原） 90～91年**  
 『広げよう愛の奉仕と緑の輪』をテーマに活発なるライオンズ活動を促がす。それには輝かしい地区的伝統を中心として結束して行動することが大切であると指摘し、率先して地区内容クラブ行事に参加し、融和を図り乍らも勢力的に啓発につとめられている。C地区10周年の締括りにふさわしい成果を上げられることを期待して止まない。

以上。

## 地区独立を振り返って

1988～89年

ガバナー L. 小 泉 昭



千葉、茨城、栃木の三県体制から単県独立を果たして早や10年を数えるとは何とも驚きである。今の時代のテンポでは、アッと云う間の10年間、つい先日の重いがする。その記念誌に原稿をとの注文に、不適任の気がしないでもないが、当時、新地区発足のための準備委員会が設置されたとき参画したことが有ったので、その頃の資料などを引っぱり出して感慨を呼び起こしているところである。

その頃の私は、地区分割賛成論に組みしていたことは間

違いない。確か、足利CAB時代、足利市民会館での第22回地区年次大会で、地区分割推進論をフッたことがあったし、第何回大会だったか、千葉市の文化会館でも指名されて、同じことをやらされた事があったからである。

333-C地区の発足は、1981年～82年度であるから、こうした思い出を辿ってみると、地区分割と云う大事業は、5年も6年もの年月をかけて何代ものガバナー年度が慎重に取り組んだ集大成であった事が充分窺えるのである。ともあれ、80～81年度第3回CAB会議に於いて分割案が決定されたあと、名誉顧問L杉浦を委員長とする新地区対応の準備会合が鳩首協議を繰り返され、現行の基本理念とも云うべき諸々の事項が策定され今日に及んでいる訳である。そのほか、故吉原ガバナーの「地区分割—千葉県独立の問題点を考える」（市川LC会報79年11月）又、地区長計リサーチ委員長L北村泰彦の記述「地区分割—その具体的対応について」などは、新地区の発足時と、以降10年の、良かれ悪しかれの流れの対比の中で、無責任な言い伝えではなく、活字として残された貴重な資料であると思うが、今、与えられた紙幅では、残念乍ら、その内容を改めて取りあげて論評する余裕はない。夫々の立場からの執筆により、記念号を意義有るものに飾ってくれることだろう。今後益々の健全発展を祈るや切である。

## 最初の分割提案者はL.吉原

1989～90年

ガバナー L. 寺 島 周 三



333-C地区の分割を、最初に提唱したのは、故吉原稔人ライオン（名誉顧問、市川LC）です。1978年、私が、ディクティー・ガバナーをしているとき、吉原ライオンは、クラブ数もふえたので、きめ細かい活動をするためには、333-B地区より分離するのがよい」と、4項目の理由をあげて申入れてきました。もっともなご意見でしたから、慎重に検討をした結果、千葉県のディクティー・ガバナーは、1979年5月、連名で、宇都宮キャビネットに分割を申入れたのです。反対意見も多かったのですが、2年ごとに333-C地区が実現いたしました。

## 1972~91年 歴代ガバースローガン

(☆印は物故ガバナー)

元地区GOV	年 度	スローガン
☆藪田 至孝	67~68	交通の災禍を絶とう愛の手で
横 智光	72~73	明るく伸ばそう若人の芽
☆加藤 元彦	76~77	調和と心で明るい社会
齋藤 貞雄		
杉浦 明	79~80	愛と奉仕で世界の仲間
☆式場倭文夫	81~82	豊かさと知性で創るコミュニティ
☆吉原 稔人		
藤田 定男	82~83	みんなで分けよう奉仕の心

元地区GOV	年 度	スローガン
☆石橋 光	83~84	愛と知性で日に日に奉仕
秋場 寛	84~85	愛の心で価値ある奉仕
橋口 一夫	85~86	奉仕で結ぼう心のきずな
平井 勇	86~87	世界を結ぶまごころ奉仕
☆手塚 勇	87~88	愛と奉仕で平和な世界
小泉 昭	88~89	高めよう心豊かにL字の誇り
寺嶋 周三	89~90	育てよう緑の大地住みよい環境
長島 彪	90~91	広げよう 愛の奉仕と緑の輪

## ご逝去された元ガバナー

### L. 式場倭文夫元ガバナー



(ガバナー経歴) ' 81年  
 • 市川L.C 所属  
 • 1906年 3月16日生  
 • 医療法人式場病院会長  
 • 64年~65年市川L.C 会長  
 • 65年~66年302E-1 地区DDG  
 • 78年~80年 複合地区  
 ライオン誌日本語版委員会委員

### L. 石橋 光元ガバナー



(ガバナー経歴) ' 83年~84年  
 • 千葉中央L.C 所属  
 • 1910年 7月25日生  
 • 石橋内科小児科医院院長  
 • 68年~69年千葉中央L.C 会長  
 • 70年~71年302E7 Z C  
 • 73年~74年302E7 D D G

### L. 吉原稔人元ガバナー



(ガバナー経歴) ' 81年~82年  
 • 市川L.C 所属  
 • 1930年 1月17日生  
 • 1961年 C M  
 • 67年~68年市川L.C 会長  
 • 74年~75年 D D G  
 • 地区委員 6回  
 • 地区委員長 2回  
 • 複合地区委員 3回

### L. 手塚 勇元ガバナー



(ガバナー経歴) ' 87年~88年  
 • 富津L.C 所属  
 • 株木更津日報社 社長  
 • 70年~71年富津L.C 会長  
 • 72年~73年302E7 Z C  
 • 77年~78年333B D D G  
 • 79年~80年333B CAB 幹事  
 • 81年~82年MD ガバナー協議会  
 事務局長



We Serve

# 思 い 出 の



キャビネット開局記念式典で挨拶をするL.式場初代ガバナー、幹事L.吉原稔人、会計L.永藤一行、副幹事L.北村泰彦の顔も緊張の中に喜びが輝いている。



開局記念式典に参加した県下

## 第1回 C A B 会議風景



第1回CAB会議には病床にあるL.式場ガバナーは参加出来ずL.吉原幹事が中心的役割を果たした。そのL.吉原も1989年7月不帰の客となった。

## 単県独立当時のリーダーたち



会議休憩中の正面席右から当時の各名誉顧問会議長 L.杉浦、直前ガバナーL.清水、元ガバナーのL.榎のにこやかな顔が印象的である。



独立当時の地区ニュース



分科委員会風景「デュピティガバナー会議」

# アルバム



ラブの指導的ライオンの面々。



キャビネット開局記念式典のあとウイサーブの発声で乾杯、333-C  
地区の意氣軒昂たる船出である。



分科委員会風景「年次大会々議」

なつかしい  
顔ぶれが一杯



会議終了後のパーティーを待つ一時（1）



会議終了後のパーティーを待つ一時（2）



会議終了後のパーティーを待つ一時（3）



We Serve

# 思 い 出 の



333-B地区と合同の最初のYEサマー・キャンプ



1982年5月9日、船橋市立文化ホールで開催された第一回年次大会。出席者はメンバー1403名、ライオネス73名、レオ43名であった。



国際大会に出発するL.吉原稔人夫妻、L.永藤、北村事務局員。



国際大会に出発するL.吉原稔人夫妻、お二人のこぼれるような笑顔はもう二度と見る事は出来ない。（令夫人も昨年鬼籍に入られた）



国際大会出発直前の談笑風景  
新東京国際空港ロビーにて。

# アルバム



単県独立の年、第三回全日本レオ・フォーラムが神戸ポートピア'81で開催された。333-C地区初のレオクラブ夏期研修会は1982年8月8日～10日の3日間富津公園を中心に行われた。



新旧役員交替懇親会に招待され挨拶するL.吉原稔人。



分割直前のガバナーL.清水を囲んで。  
(水戸西クラブ所属 右から三人目)



クラブリーダーたちにこやかな顔々……。  
浴衣になり、お酒を飲み、ホステスに囲まれると……  
まさに忙中の閑か……。



4月に開局された事務局は書類整理等で大わらわである  
(6月11日……後向きは北村さん、右側手前は里田さん  
の両事務局員)。

## 初心にかえろう

長期計画・リサーチ・指導力開発委員長

L. 吉田 政 勝



「数は力なり」地区を運営していく上に最も大切な要素は会員数の多寡であります。会員数が多ければ運営が楽であることは当然であります。10年以上前に地区を分割するや否やが問題になった時、この会員数が一番の問題点であったと思います。

分割をすれば当然会員数は少なくなり、その少なくなった会員で地区の運営を円滑にやってゆけるかどうかということです。手許にあった1982年5月末日現在の資料で333-C地区は70C3301名であります。この数字は日本LC31地区のうちC数では19番目、会員数にして23番目であり、C数では下に12地区あり、会員数にして下には8地区あったことになります。それらの少い会員数の地区も円滑な運営がなされていることを知り、それよりも多い会員数の我が地区が運営できない訳はないということで分割にふみきったと思います。

但しその運営には極力合理化をはかり、経費の節減につとめ、地区財政の健全化をはかることを誓いました。「手弁当をさげて」を合い言葉に、実際に初代の故L吉原ガバナー時代には食事もパーティーもない会議をされたと聞きました。出張費も研修費も極力おさえられ、2代目のL藤田ガバナーも之にならって合理化につとめ赤字を出さずになりました。

しかしその後会員数は増加したにもかかわらず、諸物価の高騰には勝てず赤字になってしまいました。最近歴代ガバナーのご努力によってその再建がはかられております。

「手弁当を下げる」の初心にかえって合理化をはかり、健全なる地区財政の保持につとめたいと思います。

(第2代CAB幹事)

第11代ガバナーエレクト候補者)

## 年次大会を回想して

1981~82年

大会委員長 L. 松丸 善次郎



風が運んで来る若葉の薰る中で人と人の出会いはドラマとロマンの始まり、過ぎし月日と時の流れはまた、人と人の別れを誘ってはなさない。歴史は時差の印影であると云われる。新生333-C地区初の年次大会を忘却の彼方から

呼び戻して記せと云う。1987年千葉経済クラブで市川LCの新年の集いのテーブルで式場Lから招かれて、貴方にお願いがあるので引受けで貰いたいと話されたが、何のことかと黙っていると吉原Lが年次大会委員長を受けて下さいと話された。考えた末荷が重いので辞退しました。間を置いて再度吉原Lが来て皆なで検討した結果なので否応なく引受けて下さいと言われ、是非なく受けて所属クラブに帰って三役始め会員にお計りした所クラブ上げて応援するからと心強い励ましを頂いたのでお引受けしました。愚鈍な私は年次大会を如何に運営するか思案の外でした。幸なことに吉原、永藤Lのご指導を頂きながら岡本、山本、高村、等各Lの支援と斎藤、大塚、太田、川崎の各Lの努力と協力なチームを組んで準備に万全を期し大会を厳として華麗に盛り上げ万感胸に満ちる喜びの中で「新しい行動を新しい地区のために」「豊さを知性で創るコミュニティ」のスローガンを掲げた大会の惟いは静かに……静かに下りました。大会委員の皆様に心から感謝の言葉を捧げます「有難うございました」。

# 単県独立と 松戸東L.Cの初代会長

—記念すべき結成式、チャーターナイト—

地区YE委員長 L. 青木 孝



十年前と言えば、故村上国際会長が御就任、333-C地区がB地区から分離、そしてわが松戸東L.Cが誕生という、初代会長であった私にとり記念すべき年であった。すなわち、松戸東L.Cは333-B地区清水武男ガバナーのとき結成式を、独立したC地区故吉原稔人ガバナーのときC地区最初のチャーターナイトを執行した。そしてそのチャーターナイトの日は私の60才の誕生日でもあった。

憶い出せば、結成式の当日リハーサルの途中、新会員を並ばせておきスponサークラブの主脳部が進行要領について揉め事があり、長い間棒立させられた。お互いに初めてであり仕方がなかったが、新クラブ会員はブーピーであった。式が終ったあと、清水ガバナーが青木会長はL.Cのことをよく知っていて新会員でないような会長挨拶であったと喜ばれ、自分の着けていた名入りのタイピンをはずし、私のネクタイに着けてくれたことも思いでの一つである。

結成式後岡田CN委員長とチャーターナイトの準備に邁進するとともに、私はクラブ運営の基礎固めに連日連夜頑張った。右往左往している私達に業を煮やしたスponサークラブエクステーション委員長から、会長の私が会議の席上叱られた苦いこと也有った。また数日前になんでも式のシナリオの作成者がなく、会長の私自ら一晩徹夜をして、式の進行を目浮べつつ各役者のセリフと動作を書き上げた苦労も忘れられない。

新装なった市民会館で、1200名を超える来賓、ブランザクラブ会員の祝福を受け、チャーターナイトが盛大に実施できた喜びも、つい昨日のように感じられる。

十年を経て、若獅子賞を何回も受けたわがクラブも、少なからず垢も溜り動きも鈍ってきた。十周年を期とし全会員が初心に戻り、喜んで奉仕に精進する優秀なクラブにしたいものだと念願している。

# 回想の視点

八千代L.C L. 中村清成



膨張が続けばやがて内部分裂は発生する、その極限は組織の対応に無理が生じ、矛盾が要因となって密度ある合理性を求めてくることは、必然の結果である。

C地区がこうした要因のもと、単県独立を果したのではなかろうか、その途上過程を捉え、ライオンズの理想と将来の展望のもと、英断をくだした当時の先輩Lの先見の明に改めて敬意を表したい。

◇ 単県独立当初は、69クラブが10年後には90クラブとなっている、振返って我が第2Rは、当時8クラブであったが10年間で4クラブ増の12クラブとなっている。

EXTが頭打となっているとはいえ、確かな漸増は示している。後10年後はどうなるか、豊かな日本社会構造の変化に対応する、ライオンズの社会性とは、クラブ数会員数等々興味はつきない。

◇ 私の所属する八千代L.Cは、この年度始めて最優秀クラブ賞を受賞したのも、懐しい想い出のひとつである。

C地区が単県独立をして、10年目ということ。10年ひと昔とは年月の区切に意味があり、単なる記念お祭り的なものだけでなく、分割当時の理想を喚起して、新たな起点の視野を併せ詰めることに意義がある。

10年一日の如くとは。ライオンズのACTかもしれない。兎角歳月というものは、何事も風化させ易いものである、その意味では10年を振り返るこの企画は、よいことであった。



We Serve

## 姉妹提携に想う

船橋中央L.C L. 林 静 誠

私達のクラブが発足した時は、302E7地区で、千葉茨城、栃木、群馬、新潟の五県でした。年次大会ともなると、式典や、エクスカーション等の話題で胸をときめかせておりました。当時は毎年クラブ数、会員数が増加し続け、昭和49年、新潟市での第20回年次大会を最後にEK(千葉、茨城、栃木)、EG(群馬、新潟)地区に分割されることになりました。松原ガバナーは、分割しても交流が続くようになると、積極的に姉妹提携を進め、私たちのクラブでは十日町ライオンズクラブ提携が急速に進み、その年の6月に仮調印がされました。その時、名目的な提携にならないように、海と山の青少年交歓を通して、永続的に友情の絆が保たれるよう話し合われ、早速8月には、十日町の子供達が千葉の海で交歓しました。10月に正式調印され、翌年3月には、青少年スキー教室が新潟でスタートし、両クラブの交流は青少年を通じて、益々親密度が深まり、現在まで続いております。記念植樹の船橋の桜も、十日町クラブ員の情熱で大きく育てられ、市民の憩いの場所として、その芽をふくらませ、現在ライオンズの森として名所になっております。その後、333-C地区に分割、単県になり10年を迎えたわけですが、単県になる前から、姉妹提携をしていて本当によかったです。



EK地区とEG地区分割しても交流が続くよう願い昭和49年10月船橋中央L.C と十日町L.C 姉妹提携



姉妹提携先十日町L.C とスキー教室開催

## 総武中央L.C 3本柱のACT

総武中央L.C L. 椎名 紀夫

総武中央L.Cの80~81年度の三役は会長L.椎名英夫、幹事L.伊藤斉紀、会計L.小林祐順、メンバー数25名（年度当初）という弱小クラブでした。当時のACTに思いを馳せるとこのメンバー数では財政面においては限りがあり三役さんはご苦労されたことでしょう。但し我総武中央の誇ることは若い力（平均年令41才）があるということでした。“お金をかけず奉仕できるACT”を合言葉にこの年度のL.椎名英夫会長は保育園の園長という職業柄ACTの発想が子の教育<青少年健全育成>に熱心で海外（ハワイ）の児童との絵画交歓、小学校の遊具の補修ペンキ塗り、小中学校書道展、園児にXマスケーキプレゼント。又この頃ゲートボールがはやり出し病院の待合室から老人がいなくなった時期、光町、横芝地区の第一回ゲートボールを11月27日光町営グランドで開催、<老人福祉>と光、横芝町の老人ホームの花壇の手入れ、又雄大な九十九里浜をもつ我クラブはこの自然をよごしてはと真夏の炎天下での海岸



清掃<環境美化>と何れもお金のかからぬすばらしい奉仕を苦しい中から試行錯誤の上今日の我クラブのモットーとするところの三本の柱がこの時期に芽生えたような気がします。

# 単県独立時の頃を思う

第4R RC L. 青野虎二



昭和56年4月19日、333-C地区キャビネット事務局が開局された日の記念写真を同封します。この当時の顔ぶれは今でも懐かしいです。（編集部注思い出のアルバムP18～19の中央の写真参照）

さて単県独立と簡単に云うが之を実現するには四年位かかったと思う。現名誉顧問の方や役員だった方から此の紙上にて苦労話など聞かして頂きたいと思っている次第。

私は当時馳け出しのZCで何もその辺の事情は不明、盲人が象を撫でるような事を書くと笑われるので一般会員としては、独立すれば、経済的である、キャビネット事務局も県内で固定出来る。年次大会も大体日帰りで出来る。

大会参加会員も顔見知りが多い。且て越後路まで地区大会に徹夜のようにして車で行かれた方もある筈です。

然し物事には一長一短がある。役員が良く廻わってくるクラブ役員ならいざ知らず、人によれば魅力、人によれば厄介、ライオンズも役員さんないと良いんだかねえ？と、厳選すれば角が立ち、総花式では能力が疑われ、世の流れも日々変化しつつある中を単県で一致結束し立派な成果を挙げ、本年は他に魁げて「ルテナントガバナー制」を安心して実行される。より良きリーダー達によって、本地区が円満に発展される事を念願する。

## 思い出と近況

神崎L.C L. 石井重雄



ボケ始めた頭をペンでつつきながら7年前のZC時代の思い出を記す。あの時は石原清道LしがZ幹事で何かと御指導御援助にあづかったのは終生忘れません。RZCは故石毛文行L。東庄町のお医者さん。ガバナーは一宮LCの秋場

寛Lこの方もお医者さんで何れ劣らぬ人格者がありました。職業柄献血腎臓バンクの設立に大変熱を入れ相当私財を投じたと聞く。現在石原Lしが献血腎臓の委員長として活躍されているのもあの時代の感化の賜と思われます。勿論我が神崎LCも全員登録で協力しております。5月11日～12日の年次大会を目標に磯辺会長始め3役も会員も奮闘中です。

## 今にして思えば

旭L.C会長 L. 伊東諒



「千葉県内のライオンズクラブが単県独立する事に賛成の方は、挙手をお願いします。」

独立前年度の早い時期であったと思うが、旭ライオンズクラブは例会で、メンバーの意向を確かめたときの事を思い出す。

正直に書くとその時は、少し反対のメンバーの方が多かったように記憶している。しかし単県独立の方向にキャビネットが向かっているのなら、協力もやぶさかでないとの注釈付きで執行部は一任された。

別に理論上の反対があったわけではなかったが、年に一度、楽しみにしている年次大会が県内だけでの開催となると近すぎて薄れてしまうという、言わば私達の楽しみを取ってくれるなという、他愛のない理由だったが結構説得力があり小生もその意見に賛成したものである。

思えば302-E7の頃は、年次大会といえば新潟に出掛けたり、エキスカーションとして佐渡に渡ったり、知らない土地で多くの友情に触れた思い出や感激が忘れられなかったからであろう。

しかし、それはそれとして千葉県が独立する事によるメリットの方が遙かに大きくライオニズムの高揚と発展の為には単県独立する事が必然であるとの意見は、旭クラブの統一的な意見でもあった。

333-C地区の今の発展を見るにつけて、単県独立に奔走された当時の先輩ライオンの先見の明に敬服するとともに、独立10周年に至る歴代のガバナーを始め、地区役員のご苦労に感謝と惜しみない拍手を送りたい。



We Serve

## 地区分割の頃の思い出

君津L.C L. 斎藤満生



地区分割は、1978～79年手塚信栄ガバナーの時に、千葉県内D.D.Gから提案され、継続審議となり杉浦明ガバナーに引きつがれたものと聞いている。

私は、当時杉浦キャビネットの内局の一員である涉外委員という立場で、杉浦ガバナーと一年間行動を共にした。

今当時を振り返ってみると、感慨無量なものがある。

当時ガバナーが、最も大事に考えていたことは、地区内メンバーの一人ひとりの考え方大切にしたいということだったようだ。年度の前半は、キャビネットの意志を統一することに重点がそそがれた。

茨城県の元ガバナーであるL坂本重雄を委員長に、栃木・千葉3県の元ガバナーその他先輩ライオンで構成される地区分割委員長が、しばしば聞かれて、おおむね分割する方向に進められていたようだった。

杉浦ガバナーは、この会議の動向と平行して、ガバナー公式訪問の機会をとらえて、地区分割の是非についてメンバーの意見をただした。

キャビネットで調査した332-地区、334-地区、及び337-地区の、地区分割後のメリット、デメリットを説明し、各メンバーの判断の材料を提供した。

茨城、栃木の両県は、どちらかといえば、やや消極的であり、千葉県は積極的に推進する意見が多かった。私たちの5R内には、杉浦ガバナーの地元だけれど、分割後の運営について、必ずしも手放しでは喜ばれないのではないかという意見がかなり見られたように記憶している。

1980年5月18日の木更津市で行われた年次大会で、正式に分割が決議された。そして、それから10年後の歳月が流れた。

果して、地区分割の理想は100%達成されているであろうか。そんなことを考えさせられる昨日今日である。

## 『竹に学ぶ』

長南L.C L. 星野伊知郎



ながい人生にとって節目をつけることが極めて大切なことはいうまでもない。

私共の町にはいたるところに竹林がある。

わが裏山にも猫の額ほどあるが孟宗の竹林が存在する。「竹」という植物は大地にしっかりと巾広く根を張りめぐらしながら、一節一節と真っ直ぐに節目をつけて高くそびえている。

昔から地震が襲来したら、竹林に逃げろと親から訓えられていたが、あれだけ大地にくまなく根を張りめぐらしていたら、余程の地震でもびくともしなかったに違いない。

それに竹はそれぞれの節目をつくる時に、あらゆる環境に順応できるように、諸条件を整えている。

たとえば大風が吹いても、吹くがままに、その揺れに、しなやかに対応する。

雪が積もる時は首を垂れて、雪の重みに即応する。

つまり竹はその時々の環境に叶うように、節々にしっかりととした条件整備をして、一朝有事に備えておるのである。

毎朝起床後、裏山の竹林を眺めるのが好きである。

われわれの商売においても、日常生活においても、竹は無言のうちに身を以て訓えてくれるような気がする。

わがクラブも誕生以来今年で十周年を迎える。

発足した当初から、揺るぎない根張りを着々と続けてきたであろうか。一年一年とひたすらに真っ直ぐに正しい節目を積み重ねてきたであろうか。

十周年を迎えるに当り、顧みて忸怩たるもの多々あることを否めない。竹はそのことを如実に訓えてくれる。

クラブの明日をより確かなものにするために、これで良いかを皆で真剣に考えるべきではなかろうか。

## 1R

### 浦安LC

#### シティ・オブ・ホープに 日本庭園完成

故村上薰国際会長が「世界に桜の木を」と、シティ・オブ・ホープに桜の苗木を数本植え、この度、立派に成長し公園も完成した。去る3月16日、竣工式が厳肅且盛大に行われました。

癌や難病患者を慰める為のもので、参加者は、エルカミノLC、故村上国際会長令夫人、令息、市川、市川東、習志野、浦安LCのメンバーの出席を得ました。



### 野田LC

#### チャリティ「ボリショイサーカス」 を開催

3月26日、野田市文化会館に於て、昼夜二度に分け、約2,800名の観客があった。

世界の「ボリショイサーカス」だけあって、満席の目を魅了した。

収益金は、腎バンク、県立養護学校等へ金銭アクトした。



### 柏中央LC

#### 結成15周年記念行事報告

梅の花の咲き競う平成3年2月24日、柏ハイアンに於て長島地区ガバナー、柏市長、地区役員、地元来賓、友情溢れる多くのブラザーライオンズ、遠来の姉妹クラブ韓国釜山北区LC及びLSC333-A地区長岡柏LC、333-B地区水海道LC等375名のご参席を頂き結成15周年記念式典が厳肅のうち盛大に挙行されました。記念アクティビティとして市民のふれあいに少しでもお役に立てばと、柏ふるさと公園ライオンズの森にあずまやを寄贈、腎バンク設立基金へ50万円、LCIF1,000ドル献金23名、老人の方々にお笑いをとチャリティー寄席を2月21日柏ハイアンにて催した。三遊亭圓歌、歌之助他出演、市内老人ホーム、老人クラブより150名ご招待、大いに楽しん

で頂いた。記念アクティビティ総額12,049,000円。

2部祝宴に移り歓談の後、アトラクションとして渚ゆう子歌謡ショー、途中長島地区ガバナーのデュエットで席を盛り上げて頂き、「また会う日まで」の大合唱で閉会。

メンバー一同15周年を契機として今後もクラブの歴史を嗜みながら更に理想の奉仕に精進すると共に、20年、30年の節目に向って尚一層の躍進を誓い合った。





We Serve

## 松戸LC

### 第4回松戸市 高齢者囲碁・将棋大会開催

2月4日、松戸市総合市民センターにて、市内高齢者による、囲碁、将棋大会を開催した。

クラブ恒例によるもので、今回第4回になる。

優秀者には、賞状、楯、賞品を贈り、参加者には参加賞、茶、菓子のサービスを行った。



## 流山LC

### チャリティゴルフ大会

第4回チャリティゴルフ大会を成田の白鳳カントリー倶楽部にて行なった。184名の参加を戴き、収益金として、¥1,155,256ーの金額ACTとなった



**2R**

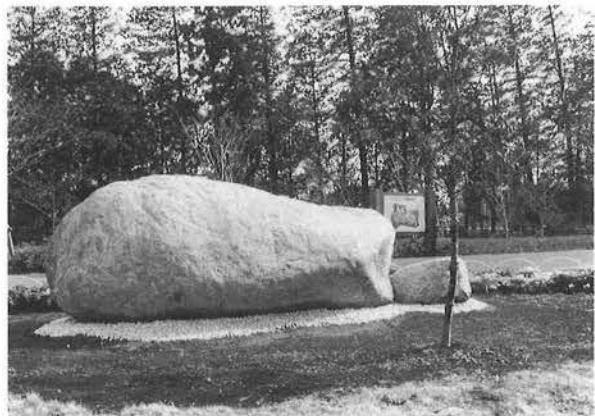
## 船橋中央LC

### 船橋ワンパク大国に植樹

船橋海洋少年団育成20周年を記念して、船橋ワンパク王国に楠の植樹と記念碑を建てました。

2月28日木曜日、午前11時30分に大橋市長を迎えて、ワンパク王国にて除幕、贈呈式を行いました。

尚、記念碑は青少年健全育成を念願して、筑波山よりクジラに似た自然石を探し出し運びこんだものです。この約32トンのクジラ石を、同園を訪れる子ども達が話題にしてくれることでしょう。



## 習志野中央LC

### 夏期派遣生の資金獲得

—チャリティ『一枚の絵』大絵画市開催—

2/22(金)～2/24(日)の3日間（サンペデック4階小ホール）「一枚の絵」大絵画市（チャリティー）を開催致しました。

市内高校（市立習志野高校、県立津田沼高校、県立実教高校）の在学生の中から推薦していただき、順々に、毎年1名、夏期派遣をしています。

その費用捻出の為にと、はじめての絵画展です。



## 3R

## 市原南LC

### CN25周年記念植樹

CN25周年行事として会員の手で大きなツゲ及びマキの木を掘り上げ、運動広場の周囲に植樹を致しました。

その時の会員の活動情況及びクラブメンバーの写真です。



## 千葉京葉LSC 千葉京葉LC

### 第10回 ダンスパーティ開催

去る2月9日千葉市内、ホテルニューツカモトに於て（主催 千葉京葉ライオネス、協賛 千葉京葉ライオンズクラブ）午後5時より第10回目のチャリティダンスパーティが（司会 元NHKアナウンサー酒井廣）行われた。毎年の事ながら沼田県知事、松井千葉市長、長島ガバナー等各士が参加され、又ロスインディオス、ロスマニートスの各演奏により大いに盛り上がった。継続は力なりと云う諺がありますが実にすばらしい事だと思います。と申しますのは1枚1万2千円のパーティ券が、約600枚1ヶ月

前に完売されてしましましたと云う喜びの声を聞きました。又その売上げのACT先としては県、市の福祉関係、読売新聞社、アイバンク協会、腎バンク協会、精神薄弱養護学校等に贈呈されました。





We Serve

**4R**

旭LC

## 旭市市民マラソン大会の後援

2月10日、旭市工業団地、日清紡績㈱ブレーキテストコースにて、旭市陸上競技連盟の皆さんの協力を得て、市民マラソン大会が行われました。当日は、大変寒い日でしたが、市民1,400名の参加をいただき、7種目に健脚を競いました。



## 青少年健全育成剣道旭大会の主催

2月11日、旭市立第二中学校体育館で第12回を数えるこの大会も本年は、25周年記念大会と銘打ち、中学校男女、高校男女のそれぞれ団体戦、個人戦の8種目に熱戦が展開されました。当日は、海上郡市剣道連盟の協力をいただき、審判、運営にご協力を頂きました。

参加校は、団体 中学校11校、高校 6校

個人 中学校66名、高校37名



**5R**

袖ヶ浦LC

## 教育奨励賞表彰式終る

去る2月23日、当クラブの継続事業である町内小中学校の児童・生徒及び先生方を対象に団体あるいは個人で奉仕活動及び教育・文化・スポーツで特に顕著であった方たちに対して、今後の町教育・文化振興のために教育奨励賞贈呈式を行いました。4団体、教職員3名、個人30名（父兄同伴）を招待し、町関係、各学校長、LC関係者の

参加の下顎賞致しました。



## 親睦ゴルフコンペ開催

4月10日、桜吹雪の下、好天に恵まれ、5R内8Cのメンバーの参加により、親睦ゴルフコンペが開催されました。本場RCの挨拶後団体、個人戦を目指し各コースに別れました。

表彰式には、プレーに参加されないメンバーもゴルフ場にかけつけ参加されました。

団体優勝 君津LC、2位 君津中央LC、3位 袖ヶ浦LC、ドネーションは君津郡市青少年健全育成基金に協

力させていただきました。



**6R**

**館山中央LC**

**青少年剣道大会開催**

—500人が熱戦、館山三芳地区—

館山中央ライオンズクラブ（酒井真澄会長）、館山市教委主催の第13回館山市・三芳地区青少年剣道大会はこのほど、館山三中体育館に約500人の選手が参加して行われた。

子どもたちの剣道技術向上と相互の親睦を深めるため、同クラブが市教委と剣道連盟の協力で毎年開催。会場にはたくさんの親たちも応援にかけつけ、熱い声援を送っていた。

各部門別の優勝は次の通り。

◇小4男子=川崎好郎（養心館）◇同女子=篠塚友里（九重小）◇小5男子=豊崎裕二（富崎小）◇同女子=柴

崎有紀子（養心館）◇小6男子=石井貴（富崎小）◇同女子=横山祐子（養心館）◇中1男子=田村幹夫（館一中）◇同女子=谷口奈々子（館二中）◇中2男子=加藤隆行（館三中）◇同女子=山田恵（館三中）◇高校男子=長狭高A◇同女子=安房南A◇優秀選手=平野明宏（長狭）川崎佳子（安房南）



**7R**

**長南LC**

**町民マラソン大会協賛**

小学生118名、中学生122名、高校一般男子9名、合計249名参加した。



**上総一宮LC**

**チャリティゴルフに200名参加**

クラブの継続ACTとして、毎年、行っている第12回チャリティゴルフ大会が、去る4月16日、地域をはじめ県内ゴルフ愛好者の賛同によって盛大に開催された。

当日は、快晴に恵まれ、また、豪華な賞品に参加者にも大へん喜ばれ、ドネーションも多く、獲得金も当初予定額を達成することができ、青少年健全育成基金積立と千葉県アイバンク協会に全額贈られた。



## レオ委員会

## 充電

333-C 地区  
レオ委員 L. 塚田 裕也

333-C地区のレオクラブ合同春季研修会が行われました。村松卓地区レオ委員長が率いる総勢64名の大合宿研修会となりました。長島ガバナーご夫妻もライオンズクラブの会合の予定の重なるなかを飛行機で研修地までおいでくださいり、レオクラブ会員を励ましてくださいました。

1991年3月25日、チャーターしたバスに乗る班と、バスに乗り切れず電車で行く班の2班に分れて、目指す研修地、山形県の蔵王の高砂屋旅館へ3泊4日の研修に出発しました。地区レオ委員の遠藤隆次郎しが、入念な打ち合わせと準備を整えていてくださったおかげで、借り切った旅館で快適な宿泊ができました。

研修の目的は、夏の研修と同じく、レオクラブ会員が親睦を深め合いながら、会員としての自覚を高め、今後のレ

オ活動に資したいということでしたが、研修を終わった今、合宿をともにした私たち大人の胸中を去来するものは、この研修が大人とレオクラブ会員の間の親睦を深め合い、大人がレオクラブ会員の養成の重要性の自覚を高めた効果もあったということです。

研修は親睦を深めるためのスキー学校入学から始まりました。指導員の親切な指導のもとで、ころんだり笑ったりしながら、たちまち上達し、2日目には、相当急な坂を堂々ところびながらも滑り下りる様子が見られました。スキー学校入学は親睦を図るうえでは、大変有効でした。

室内では、ガバナーのお話を聞いたり、各クラブのレオ委員の方々から、布団のあげ方や部屋の掃除の仕方など、日常生活にすぐ役立つことを、いろいろと教えられました。



**ライオネスC**
**週2度のボランティア**

鴨川 LSC 飯島 朋子

「三食昼寝付き」の退屈な毎日をもて余していた頃、友人にライオネスクラブへの入会を勧められた。その中のアクトの1つに、月1回の心身障害者福祉作業所でのボランティア活動がある。

昨年8月、初めて当番で行った折に、顔だけは知っていた作業所の方から「人手が足りないけれど市の予算もあってね……」ということを聞き、「私で役に立つなら週に2日位でもお手伝いしましょうか」と何気なく言ったのがきっかけだった。

長い間専業主婦で気ままに時間を過ごしてきただけに、たとえ週に2日とはいえ決った時間・曜日に出かけることができるだろうかと不安もあった。しかし、やろうと決めた以上いい加減な気持ちではやりたくない。火曜日と金曜日、10時から2時まで、できるだけ「休まない・遅れない」を極力守り1年が過ぎた。

最初は戸惑っていた訓練生（年令18才以上の心身障害者たち）もすっかり馴れて「おばさん、おばさん」と親しくなってくれている。

仕事はインスタント食品の調味料の袋詰や袋張り、時には、福祉バザーのペーパーフラワー作りや簡単なミシン掛け等々を訓練生と一緒にやっている。

これからも、このボランティアだけは可能な限り長く続けていきたい。私自身のために!!

○障害もつ身体のふるえ懸命に支えつ熱き茶運びてくれる

○編み物を教えてほしいと寄りてくる障害持つ子の瞳輝く

○作業場のラジオ体操麻痺の児らにまじりて我也手足を伸ばす

○さまざまの障害負える子供らもマイクにうたうはみな恋の歌



福祉作業所でボランティア

△春は桜の花ふぶき  
△夏は金色のひまわりの花  
△秋は風にたなびく可憐なコスモス  
△冬は寒風に耐えて咲く寒椿。  
△パワーオーバー溢れる熟年の花  
△ドリーム色に輝く青春の花  
△うるわしく咲くはゆとりの花  
△人はみなそれぞれの年代に  
△それなりの花を咲かせる  
△それが人生である。  
△今日の花は自分のために  
△明日の花はあなたのためには  
△花は未来永劫に  
△次のは社会のために  
△誰かに役立つてある。  
△咲かそう大輪の花を  
△知性の花を奉仕の花を  
△自分のために皆のためには  
△花は人生の宝石  
△私の宝石。

花ごよみ  
鴨川 LSC 木下秀子

# トピックス

船橋LC  
船橋中央LC  
船橋ポートLC

## 親子三代による合同例会開かれる

—協力金は合同ACTとして海を渡る!!—

文責 船橋LC 会長 L. 小西宗仁

- 船橋市内で活躍する6つのライオンズクラブの中で、親・子・孫にあたる船橋LC、船橋中央LC、船橋ポートLCの3クラブの合同例会が、去る1月25日市内のホテルにおいて船橋ポートLCの主催で行われた。
- 親子三代による3クラブ合同アクトは、船橋ポートLCの川尻会長、大野幹事の構成により進められ、来賓として出席した2R1Zゾーンチェアマン 三橋恒夫Lは「多様化する地域社会の中で、市内の近隣クラブで親子孫クラブが一同に会する意義は大きい」と贈辞。また、主催者を代表して川尻船橋ポートLC会長は「従来、船橋中央LCと船橋ポートLCの合同例会は毎年恒例化し、成果を挙げてきたが、本日は私達にとって祖父にあたる船橋LCも参加されての合同例会の実現は大変嬉しく思う。同じ地域社会の中で、同じL字のマークを誇る同志が同じテーブルで親しく懇談し、共通のテーマを取り上げ検討していくことも大変意義があるものと思う。その機会を提供して下さったご来会者お一人お

一人に対して、心から謝意を表する』と力強く挨拶した。

- 2R1Zゾーン チェアマン 三橋恒夫Lは「協力金として20万円を贈呈することを緊急決議し、来会者全員一致により採択された。
- (協力金20万円の内訳は、船橋中央LC 10万円、船橋LC、船橋ポートLC 各5万円)



千葉LC L. 浜田淑男

## 施設へ畳1000畳寄贈

当クラブ社会福祉委員である浜田淑男Lは会社の創業115周年を記念し、地域でのビジネスを通じて得た利益の一部は地域に還元、地域社会の発展に寄与すべきだとする兼丸浜田グループの企業理念とライオンズ精神に基き、千葉ライオンズクラブを通じて、千葉県、千葉市の社会福祉施設に畳1,000畳を寄贈し、非常に感謝されました。

千葉県、千葉市への寄贈式は2月14日のバレンタインデイに知事室、市長室にて、夫々行われました。



2月14日、沼田武（当クラブ名誉会員）千葉県知事に畳500畳の目録を手渡す浜田淑男ライオン。

船橋ポートLC

## 南国YE生2人とL子弟交流を深める

幹事 L. 大野 平四郎

去る1月15・16日4ライオンの家族とノンライオンのホストファミリー、それにマレーシアより来日したMissチャモ・ギ(20才)、ペルーからのMr. フランコ・ヒガ(16才)他大人6人、青少年12人で、林Lの提供してくれたマイクロバスに乗り白樺湖へスキー旅行をしました。

来日した2人のYE生は南国育ちとあって白い銀世界は初めて。不安と期待の落付かぬ様子。

朝6:00に出発して4時間たらずでスキー場へ到着。初めてはくスキーに、足元もおぼつかぬ様子だが、さすが若さ、へたな大野Lのコーチにもかかわらず、3時間もしたら、斜面をスルスル。午後からは、リフトにも乗り、2人の前や後を滑り廻る他の子供達と、ころんだり、さわい

いだりしながら、リフトが止まる迄、疲れもいわず滑り通し、その後もロッジに帰り又々わいわい。夜遅くまで楽しんでました。翌日も朝から夕方リフトが止まるまで滑りどうしで、まるで南国育ちがうそのよう。12人の少年少女がゲレンデに入混り、存分スキーを堪能しました。

帰りのバスは皆疲れ、夕食の後バスの中は静かなもの。正月後の連休とあって道路もスイスイ。スキースキーの2日間、フランコも、チャモもよい体験が出来たのではないかと思います。

運転手をしてくれた根岸L、ご苦労様でした。

日本の子供達も国際感覚を身につけて大きく世界にはばたいてほしいものです。



## 佐倉LC テヤリティダンス パーティ開催す

佐倉LCでは第3回のチャリティダンスパーティーが行われた。約350名の参加者で盛大に実施されて好評でした。



船橋LC

## クラブ結成30周年記念式典

### 賓主互感メンバー総出の迎え付け 来会者は式典構成と格式を激賞!!

- ◇ 人は悠揚の春を待ち、春を讃え、春に酔う。クラブ結成30周年の時の経過と時の始まりを告げる、開式ゴング鐘鳴漏尽の音が全暗天の場内に鳴り響いた。
- ◇ 簡素を第一義として、徹底した時間短縮の姿勢を崩さぬ、小西会長、高橋弘実行委員長の企画、金沢Jの演出がシナジー効果を昂める。
- ◇ 主催者を代表して、小西大会々長は「クラブ結成30周年の系譜を在籍するメンバーは誇りとはするが、今一番肝要なことは、今後100年後に入会される後進のライオンに現在のクラブ運営を託されているという強い認識と使命感を以って多様化する地域社会のニーズに即応できる新しい奉仕への道づけは不可欠」と訴えた真摯な姿勢が清涼の誓いとして来会者に強く印象づけた。
- ◇ 長島地区ガバナーは「C地区の草分け的存在である、伝統と実績は地区内でも頭一つ抜き出した存在、5クラブのEXTの実績を評価し、より一層の充実、努力を」と激励。
- ◇ また、333-C地区複合年次大会委員長 鴻巣徳次

郎Jは「稀に観る素晴らしいアイデアの充満するシナリオ、演出に終始感動した。来会者に驚愕と感動と共感を与えることに成功された。その構成は見事で、ご苦心のあとが偲ばれる。貴クラブのスタイルが今後の周年記念式典の将来の理想像」と激賞。春の宴は名残り尽きぬまゝに終焉の幕を下ろした。  
(仁 惣)



東金LC

## 25周年記念式典

当クラブ結成25周年記念式典を、4月21日、東金中央公民館に於て開催した。ガバナーL長島彪を初め、参加クラブは38クラブで、335名のライオンが参集してくれた。

記念事業として、腎バンク、アイバンクへの基金ほか、10事業の発表及び贈呈を行った。会員一同この節目を土台に、更なる精進と奉仕を誓い合った。



## 市川LC

### 「結成30周年の集い」 開催された。

2月2日、県内で最も古い歴史のある、「市川ライオンズクラブ結成30周年の集い」が開催された。

思いやりの絆、飛翔30をメインテーマに、地区ガバナーL長島彪、高橋市川市長のご祝辞の後、市川児童合唱団によるミニコンサートがあり、厳粛のうち、盛大に、とり行われた。



## 館山LC

### 館山航空基地隊での移動例会

11月第1例会をクラブ始まって以来の海上自衛隊館山航空基地隊での移動例会を行いました。ガバナー御夫妻・副会計し本宮健一も例会に出席して下さいました。日頃の自衛隊の仕事、役割等、いろいろ説明していただき、実際にヘリコプターの訓練の様子等見学し、昼食も隊員と同じ食事を頂きました。自衛隊の認識を深めた有意義な移動例会でした。



## 東庄LC 大きく拡げた日韓友好の輪

### 盛会の韓国画展

去る3月8日～11日の4日間に亘って、佐原市の清見屋デパートで行われた、崔相基（チェ・ソンギ）氏の「韓国画紹介展」は大きな反響を呼び、読売、毎日、大衆日報等で詳しく報道され、この記事を読んで会場を訪れる人たちも、かなりの数にのぼった。

これは昨年、韓国の全州（チョンジュ）市を訪問した東庄LCのL高木源三郎、L高橋惣司に崔画伯（韓国・全一LC所属）の「日本での展覧会をぜひ実現させて欲しい」との熱望に依るものだが、予想以上の関心の高まりに、当事者は勿論、協力に当った東庄LC、L清宮浩（展覧会場

を無償で提供）、福祉法人施設「北総育成園（展覧会場の作成）」、ガバナーL長島彪（展覧会紹介の推薦文を寄せ



盛況だつた「韓国画紹介展」（右端崔画伯、尹さん、東庄LC・L高橋、L石井、L高木）



る)、第4リジョンシェアマンL青野虎二(同)、多古美術サロン館長市原正夫(報道機関との折衝)氏等、関係者一同の喜びは大きかった。

展覧会支援の為、また友好と親善の為に韓国から同行された、金貞淑(キム・チョンスク)…全市婦人奉仕会長)尹秀卿(ユン・スギョン)…新洞〔シンドン〕保健診療所長)氏らも献身的に活動され、その喜びもひとしおであった。

### 数々の友好訪問

滞在日数は8日間であるが、密度の濃い友好・親善ぶりであった。

6日は旅装を解くひまもなく、旭市での割烹『あきの』の歓迎パーティ。7日は香取・鹿島両神宮の参拝や水郷地帯の視察と東庄LCの例会表敬訪問。8日は佐原LCの例会表敬訪問。9日は茨城県神栖町セントラルホテルでのJ

RC(少年赤十字)関係の方々との懇親パーティ。10日はL高橋惣司宅での地元の人を交えた歓迎パーティ。11日は鯉屋旅館で上演された北総育成園の園児に依る「犬吠の太郎」の観劇、夕刻から北総育成園職員を中心とした歓迎レセプション。12日は、早朝から北総育成園の訪問。同日午後は、「日赤成田」病院の訪問や国立佐倉郷土資料館の視察。同日夜千葉県議会議員L菅谷喜一や東庄LCの三役を交えての送別パーティと、超過密スケジュールぶりであった。この間に4日間の展覧会があつてのことだから、崔画伯は勿論、そうとうに体力と精神力の消耗は激しかったろう。またそれだけに喜びも大きかったに違いない。

ちなみに、旅費や滞在費の全額を負担されたL高木夫妻の親身にも勝る奉仕振り、8日間に亘って行動を共にしたL高橋夫妻のアシストを含め、東庄LC関係の労力ACTは332時間、金銭ACTは120万円を越えた。



佐原LCの例会訪問で挨拶をするL崔相基、通訳をする金貞淑女士



北総育成園を訪れ、園児代表より花束を受ける崔画伯、尹さん、金さん。後方は園長のL高木。

### 物故会員(2月~3月) 謹んでご冥福をお祈りいたします

千葉中央LC	故L 宍倉 美喜男(1991年 2月 4日)死去
館山北LC	故L 川名 備(1991年 2月 17日)死去
柏中央LC	故L 小樹曾 喜雄(1991年 2月 19日)死去
市原南LC	故L 鈴木 肇(1991年 2月 27日)死去

### 編集後記

第5号は「単県独立10周年記念特集号」となったので、編集員一同大車輪で取り組んだ。またちょうど10年前の独立にお骨折り頂いた諸Lには、御多忙の中玉稿を頂戴した。ここに改めて深謝申し上げる。編集に当っていると、当時の御労苦が痛いほど伝わって来る。まさにローマは一日にしてならずの感を深くする。

また、年次大会を控えて、キャビネットも汗だくの毎日が続いている。ガバナー初め、猛烈な忙しさを割いて編集等の相談に乗って頂いた。併せて御礼を申し上げる。風薫る5月、この編集が済めばあとは最終号を残すのみである。大きな山を越えたと実感する。次期編集者の背中が見え、バトンタッチが迫って来た。

### 1991~1991地区ニュースNo.5

1991年(平成3年)5月15日発行  
 発行 ライオンズクラブ国際協会333-C地区  
 キャビネット事務局  
 〒260 千葉市問屋町1番55号  
 シーオービル6F  
 ☎0472-43-2528  
 印刷 ヒトミ印刷株式会社  
 〒287 佐原市佐原1182  
 ☎0478-54-1548(代)

最高1億円の限度額まで

銚子商工 当貸型ローン

ご契約時の限度額の範囲内でなら  
必要な資金を必要なときに  
ご利用いただける大型融資です。

幸せづくりのおてつだい  
◎銚子商工信用組合



本 店 ☎ 0479-22-**5300**(代)  
新生支店 ☎ 0479-22-**4333**(代)  
清水支店 ☎ 0479-22-**3737**(代)  
松岸支店 ☎ 0479-22-**8822**(代)  
椎柴支店 ☎ 0479-33-**1211**(代)  
小見川支店 ☎ 0478-82-**2171**(代)  
佐原支店 ☎ 0478-52-**5167**(代)

旭 支 店 ☎ 0479-62-**3171**(代)  
松戸支店 ☎ 0473-67-**2115**(代)  
柏 支 店 ☎ 0471-64-**3955**(代)  
東庄支店 ☎ 0478-86-**1123**(代)  
干渴支店 ☎ 0479-73-**3955**(代)  
愛宕支店 ☎ 0479-22-**4111**(代)  
川口支店 ☎ 0479-22-**3710**(代)

見るより、見られる方がいい。



自信のある人は、セドリックに乗っている。

NISSAN  
CEDRIC



時代のまんなかにいます。

LAUREL

Model Change in 1991



ART  
FORCE  
SILVIA

シルビアの時代が来た。



NISSAN  
PRESEA

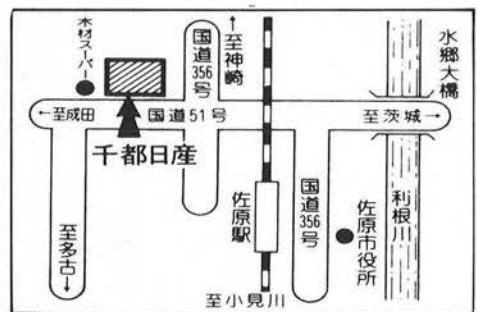


インフィニティ Q45 シーマ セドリック ローレル シルビア  
プレセア ブレーリー キャラバン アベニールカーゴ  
新しい高級車の流れはここから

千都日産モーター株式会社

佐原営業所

佐原市鳥羽332-2 ☎ 0478-55-1423



## 伝統の酒「東薫・二人静」

時は文政8年（1825）

江戸文化が開花する頃、  
東薫酒造は、下総佐原の地に  
創業しました。

鶴屋南北が「東海道四谷怪談」  
を著し、東洲斎写楽が浮世絵  
を描き、能や歌舞伎が庶民の間  
に人気を集めていた時代から、  
そして今、時を超えて  
酒を知り、酒を愛する人々に  
飲みつがれています。

佐原に、東薫・二人静という  
名酒あります。



### 本醸造 二人静

吟醸酒の美点を取り入れ、  
じっくりと仕込み、果実の芳  
香に似た吟醸香ただよう喉ご  
しのなめらかな清酒。ヒヤ又  
は、ロックで最高。

# 東薫酒造株式会社

千葉県佐原市佐原1627  
TEL 0478(55)1122

# 香 取 神 社



## 主な祭典

### 例 祭（4月14日）

大祭中最重要的祭儀で、皇室より御幣物の御奉納があり、天皇の弘栄と氏子崇敬者初め国民の福祉を祈って厳肅に行なわれる。

### 神幸祭（4月15日）

桜花咲き競う頃御神輿を中心に関八ヶ町村氏子が供奉して盛大に行なわれる。特に午年12年毎の式年大祭の豪華絢爛さは全国祭事中の圧巻である。

## 主な所蔵

海獸葡萄鏡 1面 (国宝) 古瀬戸黄釉狛犬一対 (重文)

源頼朝公寄進状 (県文) 神号額一面 (県文)